

## 2010年度日本数学会賞建部賢弘賞受賞者の横顔

2010年度の日本数学会賞建部賢弘賞の授賞式は、2010年度秋季総合分科会の際の9月23日(木)15時00分より、名古屋大学豊田講堂にて行われました。

受賞者については、「数学通信」第15巻3号の会報139でお知らせいたしました。建部賢弘賞は1999年度より特別賞、奨励賞の2部門となりました。受賞者の方々の紹介は、今までと同様にご本人からプロフィールを数行書いて頂き、写真と共に掲載することになりました。(五十音順、敬称略、所属は受賞時点のものです。)

### 特別賞

小林健太(金沢大理准教授)

業績の題目: 精度保証計算の流体力学への応用

精度保証付き数値計算について研究しています。離散化誤差や丸め誤差を厳密に評価しながら縮小写像の縮小性を検証することにより、計算機を用いて様々な関数方程式の解の存在や一意性を示すことができます。この場を借りて、今までお世話になった方々に御礼申し上げます。

高橋篤史(阪大理准教授)

業績の題目: 特異点理論におけるミラー対称性の研究

特異点のミラー対称性についての最初の論文を発表したのが、12年前のこの時期でした。特異点のミラー対称性は想像したよりはるかに深い内容を含んでいて、やっと全体の1割くらい解明できたかな、という状況です。今後も一層努力します。

宮本安人(東工大理工助教)

業績の題目: 反応拡散方程式系とその定常問題のパターン解析とホットスポット予想

楕円型・放物型偏微分方程式(系)の定性的理論を研究しています。特に固有値問題や分岐図式、解の形状等に興味があります。面白い研究を目指してゆきたいと思います。これまでお世話になった方々に深く感謝致します。

### 奨励賞

佐々田槿子(東大数理博士課程2年生)

業績の題目: 非勾配型の系に対する流体力学極限

微視的な系からの巨視的な時間発展方程式の導出について、確率解析を用い研究しています。微視的な世界と巨視的な世界をつなぐという魅力的なテーマに巡り会うことができ、とても楽しく研究しております。いつもお世話になっている先生方、友人、家族に、この場を借りて深くお礼申し上げます。

中岡宏行（東大数理特任助教）

業績の題目：代数諸分野への圏論的手法の応用

三角圏や2-圏上の代数構造に興味を持っている一方で、最近は Mackey 関手や丹原関手といった対象にも興味があり、圏論的性質を調べています。お世話になっている先生方、支えてくださる全ての方に感謝し、今後研鑽に励みたいと思います。

深澤正彰（阪大 CSFI 特任助教）

業績の題目：確率過程の漸近解析とそのファイナンスへの応用

数理統計、数理ファイナンスの問題に現れる確率過程の汎関数の漸近分布論を研究しています。現象の背後にある複雑な構造に対して、適切な極限をとってシンプルな構造を抽出する魅力的な分野です。

\* \* \*

2010年度日本数学会賞建部賢弘賞奨励賞を受賞された佐々田槿子会員が、第1回（平成22年度）日本学術振興会育志賞を受賞されました。「非勾配型の系に対する流体力学極限」の研究に対しての受賞です。日本数学会から心よりお慶び申し上げます。

日本学術振興会育志賞は、<http://www.jsps.go.jp/j-ikushi-prize/> に説明のある通り、大学院博士課程学生に授与される賞として2010年度に創設されたものです。「数学通信」第15巻第3号会報138第14項でお知らせしましたように、日本数学会では、日本数学会賞建部賢弘賞の受賞者のうち大学院博士課程学生であるものから、日本数学会賞受賞候補者選考委員会の議を経て日本学術振興会育志賞受賞候補者1名を推薦することとしております。優秀な大学院生の方を建部賢弘賞に是非ご推薦下さい。（理事長 記）